

舞台幕の仕様

<生地> ※法令で定められている、防災性能を有している生地を使用しております。
※エンジや紺が一般的ですが、他の色もございます。

定番の起毛織物（ポリエステル）

一般的に使用される、やわらかい生地です。

フェルトのような感触です。



エンジ



紺

上質な別珍生地（木綿）

毛足が長く、光沢のある生地です。

手触りは、スエードに似ています。



エンジ



紺

<フレンジ>

幕の下部に付いている房です。ラメありが一般的ですが、ラメなしや筋入りもあります。



ラメあり（エンジ生地でのイメージ）



ラメなし（エンジ生地でのイメージ）



筋入り（エンジ生地でのイメージ）



ラメあり（紺生地でのイメージ）



ラメなし（紺生地でのイメージ）



筋入り（紺生地でのイメージ）

<裏地>

幕を丈夫にするため、裏地を付けることが一般的です。

※法令で定められている、防災性能を有している生地を使用しております。

<ヒダ加工>

プリーツのことで、優雅に見せることができます。

ヒダがある方が、豪華できれいに見えます。

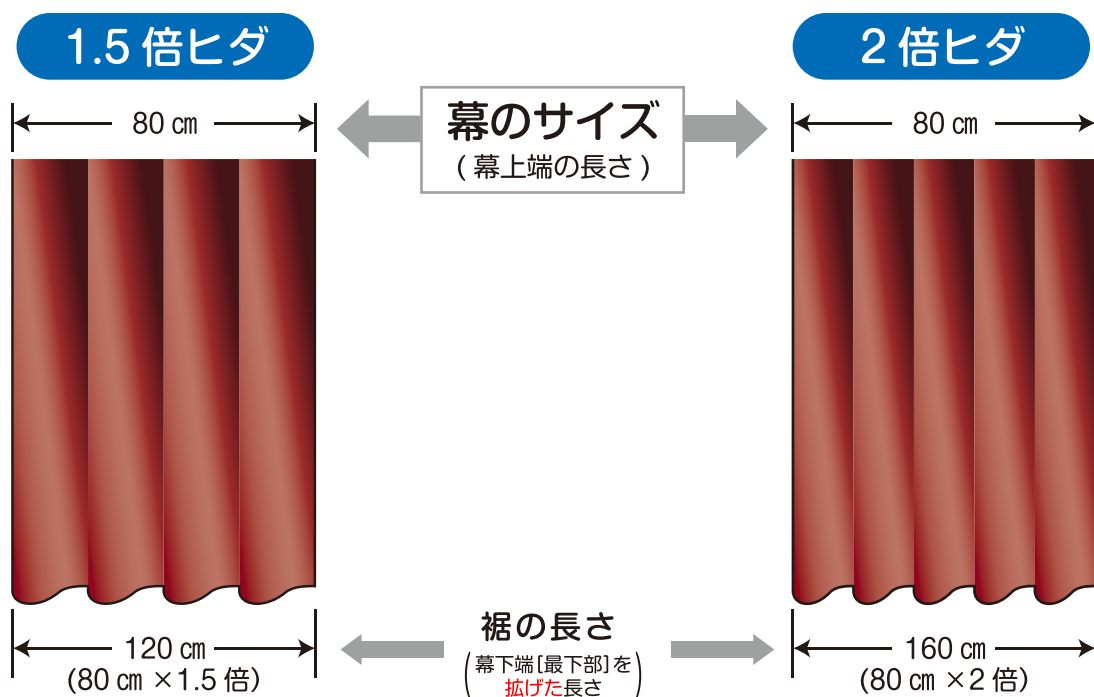


(豆知識) ヒダ数について

生地をどれだけ使用し、タック部分の生地をどれくらい重ね合わせるかなど、実際に幕が吊られたときの印象は、ヒダ数によって変わります。

ヒダ数が多いほど優雅に美しく見えるヒダですが、その数字は、幕の「上端と下端」の、長さの比率で、決まります。

例えば、W80cm の幕だとすると、1.5 倍ヒダなら、下端を上げた長さは 120cm、2 倍ヒダなら、下端を上げた長さは 160cm となります。



ちなみに、幕のサイズ (W) といえは、上端部分の長さを、指します。

<校章と文字>

熟練の職人が、刺繍により、校章や文字を施します。
アップリケ刺繍が一般的ですが、本刺繍にすることもあります。



[アップリケ刺繍]



[本刺繍]

舞台幕 トップページ